

# 地域ボランティア プログラム 「竹林整備」

2017/12/2, 9



竹を倒し、枝払いをしている様子

12月2日(土)と9日(土)の2日間、首都大学東京南大沢キャンパス内にある松木日向緑地にて、地域ボランティアプログラムの活動を行い、2日は8人、9日は4人の学生が参加し、竹林整備を行いました。10月以降の活動日は雨天が続く、2日(土)が今年度初めての竹林整備の活動となりました。ひなた緑地遊学会の方や2年目のサポーターの学生から



のこぎりの使い方や竹の切り方をご指導いただき、初めてのメンバーも挑戦しました。想像以上に傾斜がきつい斜面で足場が悪い中、思うように竹を倒せないことに戸惑っている様子でしたが、遊学会の方や2年目のサポーターとペアで取り組むことで、次第に慣れていく様子が見てとれました。

お昼には、遊学会の方との交流も兼ねて、バーベキューを行いました。自分たちが切った竹でつくった竹炭を活用し、火起こしや野菜を切る作業など、うまく分担することでチームの仲が深まったように思います。また、食べながら、遊学会の方々とも自然に会話ができ、これまでの経験談など貴重なお話を伺うことができ、良い機会となりました。

9日(土)は、少人数ではありましたが、全員が2回目以上の経験があり、1人6本以上の竹を切りました。前回よりも慣れた手つきで、切るスピードも速くなったように感じました。

アドバイザーの加藤英寿先生から、「切る前と切った後の森の変化を比較してほしい」というアドバイスがありました。たしかに日光が入り、見違える

ほど明るくなったので、成果が目に見える形で分かり、達成感があつたようです。

## 参加した学生の声

- 竹を切るのが初めてだったので、竹を倒す方向を見定めたり、綺麗に倒すのは難しかった。
- 活動が終わった後、桜の木に陽射しが差し込んでいる風景を見たときに、それまでの苦労が報われたと強く感じた。
- 活動を通して、遊学会の方々のお話を聞くことができて良かった。
- 2年目のサポーターとして、初めての人を取り組みやすいように意識した。自分が作業する時間を少しずつ減らし、次回以降も初めての人のフォローを行いたい。
- どの竹を切るのかなど、自分たちの判断でできるようにになれば、さらに効率化を図ることができると思う。
- 学内とはいえ、自然という意味人間にとって危険な場所で活動しているのだと実感したので、ケガには気をつけたい。

